

会 議 録

会議名	令和5年度第2回図書館協議会		
事務局	図書館		
開催日時	令和5年9月15日（金） 午後2時～午後4時15分		
開催場所	図書館本館 地階集会室		
出席者	委員	大串委員、大塚委員、川井委員、高橋委員、諏訪委員、伊東委員、大久保委員、奥村委員、藤森委員	
	欠席者	林委員	
	事務局	内田図書館長、香川奉仕係長、若藤主査、武井東分室長、田中貫井北分室長、神田主事	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	<p>(1) 図書館協議会の会議録の承認について</p> <p>(2) 緑センター委託に向けた進捗状況について</p> <p>(3) 小金井市立図書館基本計画 図書館評価（案）について</p> <p>(4) その他</p>		

令和5年度第2回小金井市図書館協議会

令和5年9月15日

【大串会長】 それでは、ちょうど私の腕時計でも2時になりましたので、令和5年度第2回の図書館協議会を始めたいと思います。

最初にまず、図書館長から挨拶をいただきたい。よろしくお願いいたします。

【内田館長】 本日は御多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日、第17期、皆様との協議会は最後の協議会になります。本日も皆様の貴重な御意見を承りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【大串会長】 よろしくお祈いします。

それでは、出席者と、それから資料の確認を事務局からお願いいたします。

【内田館長】 本日の出席者について御報告をいたします。委員定数10人中9人の方に御出席いただいております。林委員は御欠席となります。また、事務局でございますが、本日は緑分室長の若藤と貫井北分室長の田中が参っております。多分、今ちょっと遅れているのだと思うのですが、東分室の武井も後から参加させていただくかと思っておりますので、途中でもしかしたら入室するかもしれません。よろしくお願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元の次第に本日の会議の配付資料一覧を記載しております。資料の不足がございましたら事務局にお申しつけください。

【大串会長】 よろしゅうございましょうか。

(「はい」の声あり)

【大串会長】 それでは次第に従いまして会議を始めたいと思っております。

まず最初に(1)「図書館協議会の会議録の承認について」を議題といたします。事務局からよろしくお願いいたします。

【内田館長】 令和4年度第5回、それから令和5年度第1回の会議録につきまして、委員の皆様には校正いただいたものを本日の会議資料としてお配りさせていただいております。事前に御確認いただいておりますが、改めて本日の会議

の場で御承認をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【大串会長】 ありがとうございます。

ただいま事務局から説明がありました。会議録については承認ということですのでよろしゅうございましょうか。

(「はい」の声あり)

【大串会長】 ありがとうございます。それでは承認と認めます。会議録の公開などは事務局で作業を進めていただきたいと思っております。

次に(2)「緑センター委託に向けた進捗状況について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

【内田館長】 それでは、緑センターの委託に向けた進捗状況について御報告させていただきます。緑センターの委託化については4月に行いました第1回図書館協議会におきまして、皆様から「小金井市行財政改革2025に基づく図書館緑分館の委託化について」として御答申をいただいていたところですが、その後、本日までの進捗状況について御報告させていただきます。

5月28日、6月1日、6日に合計4回、緑センターにおきまして市民説明会を実施いたしました。教育委員会からは生涯学習部長、公民館長と私、あとは係長職者等が出席させていただきました。4回の説明会で合計74人の市民の方がお見えになりました。説明会では、資料に沿いまして説明させていただいた後、質疑応答を行っております。主な御質問や御意見としては、今までどおりに利用できるのかといった心配される声、それから宿泊施設、野外調理場、こういったものに関する御質問をいただいております。説明会の資料と説明会の議事録に関しましては、ホームページで既に掲載しておりますので、詳細はそちらを御覧いただきたいと思っております。

続きまして、小金井市緑センター運營業務委託の公募型プロポーザルを実施するため、6月28日から実施要領等を公表させていただきました。参加申込書の提出期限を7月10日と設定させていただきました。小金井市緑センター運營業務委託プロポーザル審査委員会におきまして、8月7日に書面による一次審査、25日にプレゼンテーションとヒアリングによる二次審査を実施いたしました。選考の結果、現在、貫井北分室、東分室を受託いただいているNPO法人「市民の図書館・公民館こがねい」を候補者として選定させていただきました。

今後、候補者と仕様内容等の交渉を行いまして、9月下旬以降、契約締結する予定となっております。

次に、先に御答申いただきました緑分室に関する課題です。皆様から、閲覧室内の照明が暗いため、LED化など照明器具の改善を行い、読書に適した照度となるように対応をとの御意見をいただいております。この点に関しまして、現在開催中の第3回市議会定例会に修繕料という形で補正予算を提出させていただいております。今後御議決いただけましたら、1月中旬から2月初旬まで改修工事を実施する予定としております。なお、改修工事に当たっては全館閉館となりますので、隣接の文化財センターの一面をお借りしまして、臨時窓口を設けさせていただくように現在調整しているところでございます。詳細に関しましては、決まりましたら市報・ホームページ等で広報をさせていただきます。

報告は以上になります。

**【大串会長】** ありがとうございます。

ただいまの御報告、御説明について、どなたか御意見ございますでしょうか。いかがですか。特にないでしょうか。

それでは、本件については私たちも委託化を進めるに当たって、どのような配慮が必要かという諮問を受けて、協議を重ね、この4月には答申をお示いたしました。これは図書館のホームページに全部載っておりますので、どなたでも御覧いただけると。私たちは第17期の図書館協議会ですけれども、委託化の途中で任期満了となってしまいます。この内容については第18期の図書館協議会が引き続き見守っていくことになる。事務局は答申を踏まえて、引き続き、適切に進めていただいて、よりよい図書館を目指していただきたいと思います。

それでは次に、(3)「小金井市立図書館基本計画 図書館評価(案)について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

**【香川奉仕係長】** それではお手元の資料2「小金井市立図書館基本計画 図書館評価(案)」を御準備いただければと思います。小金井市立図書館基本計画の策定を契機に、委託館を含めた図書館全体の取組について、令和4年度の事業から評価を行うこととしております。こちらの図書館評価のフォーマットのつくりに関しては、去年の協議会の中で御議論いただいておりますので、そちらをまず使用しまして、事前に、今日の前に委員の方に送付させていただいております。

その中で、やはり委員の方から御意見いただきまして、見やすさですとか評価の目的だったりとか、もうちょっと一般の方に伝わる意見がいいんじゃないかというような御意見をいただきましたので、やはり今回の図書館評価は市民の方にも見ていただくというところに一つ目的がございますので、いただいた意見は反映できるところは反映しまして、あと幾つか誤字脱字もあったので、本日、資料2として配付させていただいたのが修正版ということになっておりますので、こちらを今回評価の案ということでお示しさせていただいております。

特に修正した箇所は表紙の部分になります。事前に送付させていただいたところ、頭のところは「評価の体系」というような形で書かせていただいたんですけども、今回、図書館評価、そもそもの目的論としては、目指す図書館像に少しでも近づくために毎年度毎年度評価していくというところがございましたので、やはり評価の目的ということで項目を修正しまして、文言もなるべくシンプルな形で修正をさせていただきました。

また、総評もC評価のところ、以前は「基本方針に対して成果が今後あらわれることを期待する」というような形を取っていたんですけども、C評価は取組に対して課題認識があるということをやはり明確にする必要があるのかなということもありましたので、今回、C評価のところも少し表現を変えさせていただいております。「基本方針に対して成果を出すために課題がある」というような表現で修正をさせていただいております。

今回、数値目標、例えば貸出冊数が何点以上ですとか、そういった数値目標は掲げていないので、総評の視点としては、「達成した」「達成できていない」というような表現は避けて、あくまでも成果というような、定性的にも数値的にも両方取れるような表現で、こちらは進めさせていただいているところでございます。

それでは資料2の2ページ目を御覧いただければと思います。「評価の体系図」となります。こちらは特に修正してないのですが、改めまして説明させていただきますが、各事業の積み上げによって、それぞれの施策の成果が現れて、目指す図書館像へ向かうということをこちらで示しております。こちらに関しては、特に修正させていただかず、このまま進めていければと思っておりますので、御承知おきいただければと思います。

3 ページ目を御覧いただければと思います。こちらは単年度の取組、継続して取り組む事業の中でも、特に令和4年度、重点的に取り組んでいきますよというような事業をピックアップしてございます。それぞれの各方針ごとに重要取組を整理させていただいている項目となっております。

続きまして4ページになります。4ページを御覧いただくと、前ページの重点取組予定事業に関しては、「事業の結果」のところで、★印で目立たせてございます。特に今回、基本方針1、2、3、4の方針ごとで、PDCAサイクルの考え方に基づいて評価を行っている関係もありまして、また、委員の方からもメールで御指摘いただいたのですが、PDCAサイクルの、どこがPlanでどこがDoなんだというのを書いたほうが良いという御指摘もありましたので、今回、修正版で追記させていただいております。

事業の方向性のところはまずPlan、「事業の結果」、その横はDo、「事業の成果」はCheckとし、一次評価のところはActionというような形で、評価表のところでPDCAのサイクルを意識して見ていただきたいと思っておりますので、そのように追記させていただいております。

4ページから7ページに関して、この4枚、それぞれ各基本方針ごとの評価となっております。この「事業の結果」、Doのところの積み上げに関しては、小金井市が発行します全部署の「事業の結果」をまとめております「事務報告書」と、今回お手元でございます「小金井市図書館」、こういった統計資料を基に、端的に「事業の結果」を積み上げております。全部が全部入っているかということ、入り切れない部分もあるので、「事業の結果」でも重点取組事業はもちろんのこと、あと主立った事業だったり、それぞれそういったものを書かせていただいております。

「事業の結果」は端的に書かせていただいているのですけれども、その下の施策の成果に関しては、行った「事業の結果」で得られた状態や変化というものを分析させていただいて書かせていただいております。一次評価では、その分析を受けて、今後こういうふうに改善していきたい、またはこの事業にはこういう課題を認識している、今後いろいろ改善しなきゃいけないなというところを一次評価では記載させていただいております。

左隣の参考指標です。傾向として矢印を書かせていただいております。こちらは

過去2年間の数字と当該年度の数字の比較になっているんですけども、過去2か年の数字を超えれば上向きの矢印、それよりも当該年度が下であれば下降の矢印になっています。過去2年間で、上限でも下限でもない、真ん中に入っている場合には横棒の現状維持という形で表現させていただいております。一番右下です。総評の欄ですけども、こちらは現在括弧書きになっておりまして、これは図書館側での総評ということで記載をさせていただいております。

続きまして5ページを御覧いただければと思います。5ページのところは、まさに図書館がいろんなイベントを行ったものをいろいろ集計しているものになっております。例えば乳幼児向けのイベントですとか、子ども向けのイベント、YAのイベント、一般向けのイベントということで、数字が積算されております。こちらは事務報告書から仕分しているものになっていまして、事務報告書はこの館が、いつ何をして、何人来たかという記載しかないもので、それを図書館の、例えば自主事業の場合ですと、講座とおはなし会と育成、育成は例えばボランティア育成とか、そういったところなんです。このカテゴリーに分けて、他団体の自主事業、例えば中学生とかの職場体験とかいう場合には、見学ですとか受入れというような形で、カテゴリーを分けました。

今回、このそれぞれのイベントにカウントしているのは、自主事業のうちの講座として仕分したものをカウントしています。年齢別の対象に関しては、結構、年齢層が幅広いところもあるんですけども、メインターゲットに置いている年齢層に注目しまして、乳幼児、小学生まで、YA、中高生ですね。あと一般は大学生以上、あとは全年齢ということで、年齢問わずという形で、各事業を、それぞれカテゴリーをちょっと分けました。ですので今回の乳幼児向けの事業のカウントに関しては、メインターゲットは乳幼児ですよ。子ども向けのイベントは小学生まで、YAイベントはYAと。一般向けイベントに関しては、一般と全年齢として仕分した事業をそれぞれ積み上げた結果がこちらに記載させていただいております。特に公民館と併設館は連携事業を行っているので、メインターゲットにそれぞれ分けて、ここの積算に入っております。例えば東分室で行いました子ども司書、こちらは公民館との連携事業なんですけど、これは子ども向けのイベントとしてカウントしていますし、北公民館連携事業、ビブリオバトルは一般向け、YAひろばはYAのところ仕分してカウントしております。

続きまして6ページを御覧いただければと思います。施策の成果3-2のところに、子ども司書の結果得られた成果を載せています。図書館の事業を4つの基本方針ごとに仕分したんですけども、得られる成果はやはり横断して重複するところもありますので、基本方針2でカウントした子ども司書の結果、そこで得られた成果は基本方針3にも重複して書かせていただいております。このように、それぞれのところで、基本方針1、2、3、4、ちよつとずつ横断しているところもございますので、そこは御承知おきいただければと思います。

次に飛んでしまうんですけども、8ページ目が基本方針1、2、3、4、それぞれ一次評価をさせていただき、次年度、令和5年度の重点取組事業を基本方針ごとに書かせていただいております。

続いて9ページ目を御覧いただければと思います。9ページ目の資料はあくまで参考資料となります。8月の末にオープンしました東京都立中央図書館、こちらが調査しました令和5年度東京都公立図書館調査のデータを反映しております。ですので一応、最新のデータとなっておりますので、あくまでも参考ということで御覧いただければと思います。

今回、事前に送付させていただいている内容は、ほとんど中身は変わっていません。変わっているのは表紙のところと、PDCAサイクルのPlan、Do、Check、Action、これを追記させていただいたものが今回、修正版として主に修正させていただいた箇所なんですけれども、中身に関しては、誤字はありましたが、ほぼ変わっておりません。内容に関しては、皆さん1度御覧になっているかと思っておりますので、今回はこちらの評価票は、この場で御議論をしていただいで二次評価に進めていければと思っております。ただ修正版は今日出させていただいたという経過もあるので、今日から1週間は、改めて追加の御意見を募集できればと思っております。今日の御議論もそうですし、例えば家へ帰って、これ言い忘れたというような方もいらっしゃると思いますので、今日の御議論と、今日から1週間、9月22日、金曜日までを期日としまして、メールでの追加意見も設けたいと思っておりますので、今日の御議論と、そのメールの内容を集約しまして、今回は会長御一任の中で二次評価をまとめていければと思います。

二次評価も進んだ段階で、総評も括弧書きから確定した総評、ABC評価とな



ったことで図書館評価完了とさせていただければと思いますので、御理解、御協力のほど、よろしく願いいたします。

雑駁でございますが、図書館評価の説明を以上とさせていただきます。会長よろしく願いします。

【大串会長】 どうも御説明していただいてありがとうございました。係長の頭の中をちょっと広げていただいて、そこで皆さんでのぞいてみないことには何とも言いようがないような、世界地図みたいなことになっていますので、これなかなか難しいですね。それでこれを見ますと、私、天眼鏡を持ってきてもなかなか見えないので、拡大してやったんですけども、これだけ小さな字をずっと見ていると、何か目がシバシバしてくるようなこともございまして拡大したんですけども、拡大してもあれだなという感じで、なかなか難しいなど。これは、我々はどういう扱いにするのかということも皆さんに諮らなくちゃいけないんですけど、例えば1ページからずっと、1ページどうですか、2ページどうですか、3ページどうですかというふうにやるのかなと思うんですけども、そこで出た意見は事務局のほうに記録していただいた、後で広げて見るのかなとか思っているんですけども、ただ、意見としてどういう出し方をするのか。

一応これは計画がございまして、それでそこに基づいてこういう事業をやりましたよとかいうことなので、多分、皆さん方の頭の中には、ここについています計画の体系がございまして、計画の体系はちょっとあれだなということで、外れたところでお考えの方もいらっしゃると思うんですね。そういうようなことも普通に言ってもらおうかと思うんですが、例えばこの前の図書館協議会に出たんですけども、ここには書いてないけどもどうなのということも中にはあると思うんですね。そういうことで、どうしましょう、1ページ目から見ていきますか？ それとも、もうみんな何でもいいから、とにかくしゃべってもらおうと。それで、ここについてしゃべるんだということを一応言っていただいて、皆さんはそのページをめくって、そのページを見たときに御発言いただくということですか？ いかがいたしましょうか。どうでしょう、最初のページから見ていきますか？ どういたしましょうか。取りあえず最初のページから見ますかね。

じゃあ、お手元の資料2「小金井市立図書館基本計画 図書館評価（案）」と

ということで、1 ページ目、「評価の目的」と「評価方法」、それから「総評の視点」、  
こういうことをごさいますて、何か二次評価を図書館協議会が行いますと書いて  
あったね。我々の評価、これから議論するのがその評価になるのか、二次評価  
になるのかと思うんですけど、どうでしょうか。目的のところはこういうふう  
に書いてある。マルが3行目の一番最後にあるんです。大変長い文章になっている。  
それから評価の方法は、こういうことでやっています。計画最終年度、5年目に  
当たるため、基礎調査を実施しと書いてある。これは5年目というのは何年でし  
たか。まだ大分先ですね。

【香川奉仕係長】 令和8年です。

【大串会長】 8年ですね。まだ大分これは先の話でございます。そういうこ  
とも視野に入れながら、それから総評の視点というのは、これは括弧がもう総評  
ということについているんですけども、我々がこれを入れるの？

【香川奉仕係長】 括弧書きになっているのが、図書館としては、一次評価ま  
で、総評としては(A)とか(B)というような形になっているんですけども、  
ただ、今回皆さんからの二次評価をいただいて、そこを総合的に勘案したときに、  
じゃあAなのかBなのかというところは御相談になってくると思いますが、そ  
こで括弧が外れる。

【大串会長】 いや、これはなかなか難しいね。僕は図書館で実際に働いて、  
図書館の大変さを、特に1980年代、90年代のああいう状況の中で、貸出係  
で大変な目に遭ったという。とにかく本がどんどん、どんどん、借りられて、ど  
んどん、どんどん、返ってきて、返ってきた本については、利用者から、返っ  
てきた本をすぐ見せろとか、それでブックトラックは全部、返ってきた本を並べる  
のに取られちゃったために、本棚に本を返すのは、ブックトラックが使えないも  
のだから、全部えっころしょっと抱えて、頭の上ぐらいまで積み上げて、本棚に  
よろよろと持って行って、それで本棚に、取りあえず顔を傾けながら、片目で本  
棚を見て、それで本を取ってぱっと横から投げ入れるような形で入れていくと  
いう。だから本棚に並べるときに、例えば上の分類の番号があって、その下に著  
者記号なんてついていますが、そんなのは一切無視してどんどん入れないと、  
取りあえず仕事が終わらなかった。

それで1日大体、2万歩から2万5,000歩は歩いたね。大体1,000歩が

10分ですから、2万5,000は4時間ぐらいになる。仕事の半分ぐらいは歩き回っているという、それも本を抱えて歩き回っていたという、そういう仕事をした人間から見ると、図書館は大変なんだな、仕事。大変な仕事をされた方々がまず一次評価でABCを入れたのを、これを覆すのはなかなか難しいなと思って読んでいたんですけども。

どうでしょうか。1枚目どうですか、1ページ目。どうぞ。

**【伊東委員】** 御説明ありがとうございます。こういう事業評価の考え方にはいろいろなやり方があるかと思うんですけども、基本的には、第一次評価は自己評価、そしてその自己評価を受けて、我々のような関係者が第二次評価をする。大切なのは、一次評価と、それから関係者評価の評価の中身がずれる。このずれを改善点としてチェック、アクションに持っていくという、これが事業評価の基本的なやり方ではないかなと思うんですね。

そうすると、自己評価の段階で、やはり主体者側である図書館の方々がAとかBとか、そういう何らかの数値を出して、それに対して、自己評価を受けて、関係者評価が、AなのかBなのかCなのかという、細かい形で言えば、そういうような構図になる。ですから総評の視点というふうなところに、この指標が出ているんですけど、これ、総評の視点ということじゃなく、それぞれの事業評価の視点というふうに見て、自己評価と関係者評価がそれぞれ……。関係者評価のところだけ視点が出るというのは、評価のやり方としてどうなのかなと思います。ちょっと先へ行っちゃって申し訳ないんですけど、例えば4ページ以降にある二次評価の欄、ここは図書館協議会の意見で総評を入れるというところに、既にここに評価が入っているということ自体がちょっと解せないんじゃないかなと思うんです。せめて一次評価のところには図書館側の評価欄があって、それを受けて、二次評価のところには空欄で関係者評価というのをしていかななくてはいけないのではないかという、そういう全体的なやり方に、若干、何というんですか、ちょっと疑問を感じました。

**【大串会長】** 非常に論理的な御説明ありがとうございます。そういうことでございますけど、一応だから、二次評価の右側にある総評というのは、ちょっと皆さん指で隠していただいて、それで進めたいと思うんですけども。どうぞ。

**【大久保委員】** 今ほどの御意見に沿った流れになるんですけども、私も同

感で、3つぐらい、1ページ等についてあります。まず評価の目的、一番上の括弧のところの「実現を目指します」で終わっていますが、足りないんですね。そもそもこの基本計画による基本方針の点検評価ということを行っていきまして、こちらの49ページにPDCAサイクルとあって、市民への公表を通じて、市民に開かれた図書館運営を図ると目的が書いてあるんですね。ですからこれは自分たちの仕事のチェック、評価なんですけども、やはりこの後に、図書館評価を市民へ公表することにより、市民に開かれた図書館運営を図るというふうに、やはりここに書くべきだと。要するに自分たちの仕事のためのチェックはもちろんなんですけど、それが市民に開かれた図書館をつくっていくというのを最初に、目指す図書館像に書いているのに、どうしてこの文言がないのかなと思いました。

【大串会長】 なるほど。

【大久保委員】 それから、今この3つ目の「総評の視点」のところですけども、やはり総評の視点ではなくて、評価の指標、評価指標とか。総評の視点というのはちょっとずれているんじゃないかなと。評価指標とか、何とか指標とかという形で、成果があったというところですけど、今、定性的なということから、成果という言葉を選んでいるという御説明があったのですけれど、自分寄りの言葉で書かれているという気がしていて、例えば子どもの通知表とかで、「達成している」「一部達成している」「努力を求む」とか書いてあるんですけど、目標に対して達成していたかどうかを私たちは知りたい。成果というのは自分の中で幾らでも変えられるんですけど、達成したかというような評価をしていたのかなということで、成果ではなくて達成、例えばAでしたら、基本方針に対して達成したとか、Bでしたら、基本方針に対して一部達成した。Cでしたら、基本方針に対して課題があるとか、もうちょっと曖昧、ちょっと逃げちゃっているとか、及び腰というか、しっかり評価するのであれば、「総評の視点」というところも今の指標にするとか、成果を達成にする形で見直されたほうがいいのかなと。どうしても、これからやっていくので最初が大事だと思いました。

それからお話しのように、4ページの総評の書き方です。意味が分からなくて、あれでしたら黒板に書いてもいいんですけど、先におっしゃられた、見づらいんですけど、基本方針に対して、一次評価、自己評価、自分たちでつけます。二次

評価は図書館協議会がつけますという形で。

【大串会長】 黒板に書いたほうがいいですか。

【大久保委員】 書いていいですか。そういう形でやって、その差を見ていくというのは、そういう表が必要なのかなと。

【大串会長】 どうぞ書いていただいて。

【大久保委員】 ですから表がなくてもいいんですけど、紙面の中に一次評価の欄と、二次評価の欄を。こういうものがある。ここですね。ここは一次ですね。ここが自己評価。二次、これは協議会。ここに基本方針が4つ。基本方針1、2、3、4。今、括弧書きで書いてあるのが、A、A、B、Aとか書いてあると思うんですけど、こういう表、分かりやすい。市民の方は全部見るわけじゃないので、取りあえず結果だけ分かりたい。こういう表し方もあるのではないかと。

【大串会長】 なるほど。ありがとうございます。

では最初のページ、いかがでしょうか。だけでも評価の目的があって、評価の方法があって、方法というか、評価の視点というのがあって、それで、それに基づいて評価という、こういう流れになる。ちょっと待って、それで評価の指標というのはどういう……。

【伊東委員】 よろしいですか。

【大串会長】 どうぞ。

【伊東委員】 基本的には、事業評価というのは評価基準というのがある、その基準がAとかBとかCとか、あるいはSなんていうのもあったりして、目標に対してどれだけ達成できたか。予想どおり、目標を十分達成できたら例えばAとか、まあまあでしたらBとか、ちょっと不十分でCとか、そういうようなことよりも、さらに顕著な実績が見られたなんていう場合はSとかというふうな評価基準があって、総評の視点というよりは、評価基準というものに対して自己評価をされる。その自己評価をされた部分について、いや、ちょっとそれは厳し過ぎるんじゃないですかとか、協議会の方が、一生懸命頑張ったんだからSでもいいじゃないとか、そういう意見を我々が言ったらいいんですね。もうちょっと頑張ってもらいたいので、AだったんだけどBにしたほうがいいんじゃないとか、そういうようなディスカッションをしていくようなのが事業評価の一般的なやり方で、いろんなところでそういうやり方をしているのではないの

かなという意味で、先ほどの大久保さんの御意見をちょっと踏まえたお話ということでさせていただきました。

【大串会長】 そうしますと、1ページ目の一番下の枠は、今、先生方がおっしゃったような評価の基準となってきた、SとABCと。こうなるというのがいいんじゃないかという感じはしたんですが、いかがでございましょうか。評価の視点というのは、ちょっとまた、全然話が違ってくるので、視点というのは何なんだろう。社会がこういうふうに変ったからとか、何かそういう視点が広がり過ぎると混乱するようなこともあるので、むしろ、これは視点を外して、評価の基準とすると分かりやすいのかなと今感じました。視点というと、もうちょっと話が、レベルの違うことがいろいろ入ってくるような感じが。それで、要するにSとABCという御提案があったのですが、Sというのは、これは要するに顕著な評価。

【伊東委員】 当初の想定よりもいい、顕著な実績を得た場合なんていうのは、まれにSをつけたりしているケースが多いのでは。それはでも、それぞれの自治体のやり方が当然あるので、一概にどうこうしなけりゃいけないということではないんですけど、そういう基準というのはやはりあって、物差しですよ。それを見て、一次評価も二次評価も決まっていくという共通の尺度があったほうがいいんじゃないかと。そういうふうに思います。

【大串会長】 ありがとうございます。

【大久保委員】 すみません、「成果」という言葉が出ているんですけど、私は「達成」のほうを好むんですけど、その辺の違いというのはどういうふうに。自分の中で成果があったと捉えちゃって、内向きな評価のような気がして、評価なので、例えばLED電球を交換しましたということ……。達成でいいと思うんですけど、達成と評価の違いはどう捉えたらいいのでしょうか。同義語だとは思いますが、もし同じ意味だったら、私は達成を選びたい。ただ、達成を選ぶことで、何かリスクがあるのでしょうか。同義語。

【大串会長】 どうぞ。

【藤森委員】 「達成」というと、まず達成目標を設定して、そこに達成した場合という感じに受け取れるんですね、言葉として。「評価」というと、やったことに対してよくできたか、よくできていないかというふうに捉えても、最初に

目標というものを掲げていれば、達成と言えると思いますが、掲げていなくても、やったことがとてもよくできているならば評価されると私は思います。

【大串会長】 どうぞ。

【奥村委員】 個人的な成果と達成のところだと、例えばさっきの点数だと、60点、今あって、90点を目指すといって、90点をやれば達成だけれども、成果だったら、80点でも20点は伸びたねといったところで見れるので。

【藤森委員】 そうですね。

【奥村委員】 何かマルかバツかみたいな感じになってしまうけれども、それでは判別しにくいから、定性的なところも含めて「成果」としたいのかなというように感じました。

【大串会長】 これは難しいね。

【藤森委員】 ちょっと付け足して、達成という言葉を使うとすると、まず達成の目標というものを決めなくちゃならないと思うんですね。それがまた大変な作業じゃないかなと。今、奥村さんがおっしゃったように、何点までというような決まりがあって、そこまで達成しなければ達成しなかったと言えちゃう場合と、60点が80点になった場合は評価されるということと、大きな違いがあると思いますので。

【大串会長】 これは難しいですね。

【藤森委員】 すごく難しいと思います。達成というのはやっぱり目標をまず設定しないといけないことになってくるので。

【大串会長】 そう、それでね、要するに現実の問題として、図書館の仕事というのはやっぱり限られた資金と限られた建物や何かを使って、それで限られた人員でやるから、例えば人員を倍にすればこういうこともできますよという話が当然出てきちゃうので、今の私どもが検討している図書館というのは、年報や何かに出ているように、どれくらい的人员で、どういうふうにしてやっていると。なおかつ、図書館も、こういうふうに配して、こういうふうに行っていると。これが目に見えるような形で示されているので、これだけの人員でこれだけやればすばらしいよなという、そういう感覚と、いや、これだけの人員で、これだけのお金かけているんだけど、何でこれだけしかできないのという感覚的なものと、それから達成と言うと、おっしゃるように、何かばっと、これだけの人員

でこれだけやるんだったら、世の中一般として、これくらいのことはやらなきゃいかんという、達成という、数値目標だとか、そういうのがあって、それに対して例えば70%できませんでしたという話になってくるので、我々としては、達成というよりは、もう少しアバウトな、よくやってるなというようなことでもいいんじゃないかという感じもしないでもないですが、いかがですか。

私のように、実際に、先ほど申し上げたように、現場を経験した人間から見ると、小金井市の御努力は大変、皆さん方いろいろと苦勞されて、努力されて、いろいろやっているなど。ただ、建物空間的に、例えば1階の、今度変更するところでも、いや、あれはもうちょっとこういうふうにすれば、今の人員と枠組みでも、もっといろいろ、自分のためにいろいろできることがあるなというようなことはあるわけ。だけど、それは取りあえず置いて、今の現状で話をするわけだから。例えば非常に極端な話をすると、今ここに建物があって、こういうふうにあるんだけど、駅前に移したら、もっといろいろなことできるよなという話も当然出てくるわけだね。そういう話は今回はしないわけで、あくまで今の、現在の状況でやるんだけど、どうでしょうね、やっぱりいいんじゃないですか。よくやるとか、とてもよくやるとか、それから、もう少しやってほしいなど。

【内田館長】 会長すみません。

【大串会長】 どうぞ。

【内田館長】 伊東先生からの御意見もあった中なんですけど、表は若干、作り替えさせていただこうと思います。今日の段階では、お手元の資料の一次評価と書いているところと、今、総評に書いているAというのが、先ほど伊東先生もおっしゃっていた、我々のこの事業に対する評価として受け止めていただいて、それに対して皆さんが、いや、これはもっと足りないだろうとか、そういう御意見を今日ここでお出しいただいて、今日まとまらないとか、お時間の都合もありますので、1週間後くらいまでに、御意見をまたメールでお寄せいただいとところで、その中で、事務局と、先ほど申し上げた会長に御一任いただく中でちゃんとした形にして、最終的には皆さんにもう一回確認を取らせていただきますので、そういう形でいかがでしょうか。

【伊東委員】 ちょっといいですか。



【大串会長】 どうぞ。

【伊東委員】 そのやり方でいいと思うんですけど、今後、これから図書館評価をされるのであれば、先ほど来から皆さん方が御意見おっしゃっているように、この評価をする前に、年度当初にやはり目標は設定しておいたほうがいいと思います。先ほど来から出ている、目標があって、それに対して1年間どのような活動を行ったからこういう達成があったとか、目標を設定すれば達成という言葉も使えると思うんですけども、目標が、明確なものがないので、達成という言葉が使えないという枠組みの問題だと思うんです。なのでこれから、今回はこれでいいと思うんですけど、今後、図書館協議会の事業評価をするのであれば、最初に目標ありき、その後活動、実践ですね。その後、こうした評価という形の、そういう順序性、シーケンスを確立していくことが適切な事業評価を行う上で重要な考え方ではないかなと思います。今年度は、今、館長からお話があったようなやり方でいいかと思うんですけども、ちょっとそんなふうに。

【内田館長】 目標、おっしゃられるとおりでと思いますので、目標に関してはしっかりと、来年度、設定させていただこうと考えています。

【大串会長】 いかがですか。

【大塚委員】 達成と目標は違う言葉、違う意味だと思いますので、今回、今、私たちがやっていることに対しては、評価という言葉のほうが私は適切ではないかと思います。使う言葉として。その上で、時間的な問題もありますので、図書館でやってくださった自己評価に対して、じゃあ私たちはどう考えるかということをつづつこの場で協議してということではないかと思うのですが。

【大串会長】 今の御提案、いかがでございましょうか。何かございますか。どうぞ。

【奥村委員】 僕もその先の中身についてちょっと。ごめんなさい、発言してもいいですか。

【大串会長】 今の御提案もあったので、ちょっと今、試しに、ページをめくっていただいて、例えば今の4ページの基本方針1というのがございますけども、ここで一次評価ということで、右の下のほう、基本方針に対する成果として、一次評価ということで書いてございますけれども、取りあえず、これに対して御

意見をいただこうと思うんですが、いかがでございますか。

【奥村委員】 その達成評価というところで、多分分かりにくいところが、恐らく施設の成果というところが、多分、「事業の結果」のところは書いてあるとおりで、行ったことというところでいいと思うのです。「施策の成果」のところでは、例えば1-1では、「利用しやすくなったと感じる市民が増える」というのが「目指す状態」じゃないですか。一方の右側のチェックとしては、課題の整理が進んだとか、職員の防災意識が高まったというふうなところで、本当に利用しやすくなったと感じる市民が増えましたかというところで、チェックになっているのかなというところで、これが、市民の何%が感じましたというんだったら、あ、確かにそうですとは言えるけれども、市民が感じるというふうな、「施策の目指す状態」で書かれていることが結構多いんですね。

例えば1-2だったら、「接触頻度が高まる」で、右側の欄の一番下で、「利用者が増えた」となれば、高まったなどは評価できますし、1-3だったら、「効率化する」で、右側も「効率化に向けた取組」でいけるんですけども、例えば1-1であるとか、2-1も、「利用する子どもが増える」というところなので、右側には、子どもの利用が増えたかどうか書かれないと、こちらは評価しようがないんですけども、ちなみに下のほうを見ると、児童の貸出点数は昨年度より減っている、2-2も、「楽しむ市民が増える」というのであれば、楽しむ市民が増えたかどうかですが、機会をつくったというところで、楽しんだ市民が増えたかどうかという評価と、書かれているチェックの内容というのがちよつとずれているのかなと。読書を楽しむ市民が増えたとか。

例えば、すみません、ちょっと飛んで7ページで、4-1などは、「図書館が提供する資料に魅力を感じる市民が増える」と書いてあり、右側には、魅力を感じる市民が増えたかどうか、やはり、「研究を進める」とかというところで、目指す状態に対してのチェックが、「市民が」と書いてあるけれども、「図書館が」の評価になっているので、こちらの評価のしようがないというところ。なので、例えば図書館が資料をまとめるであれば、右側は図書館が書いたもので、こっちは評価できますが、市民が、例えば安心を感じるとなれば、市民がどう感じているかがチェックに当てはまらなくてはいけないので、その施策の成果のところ、市民が」と書いてあるけれども、図書館がやっていることとなると、評

評価ができないというか、そのデータがないと言っていいんですかね。

そうすると、例えば1－1で、課題の整理が進んだから、市民が感じたかどうかと言われたときに、いやどうだろう。職員の防災意識が高まったから市民が安全と感じましたかと言われたときに、いや変わっていないといたら、別にそれは変わっていないになりますし、サウンディング調査を行ってどうなりました、市民がどう感じてますかといったときに、市民が感じてるかどうかは分からない。ちなみに電子図書館の利用者は微増となっていますが、下のところを見ると1人減になっていたりしまして、まあ、おととしからは増えていますが。なので、市民がどう思っているかどうかここに書かれていないので、その部分は評価ができないところが達成かどうか厳しいのかなという感じがしています。ごちゃごちゃした説明になりましたが。

【大串会長】 なるほど。そうするとこれは、一層難しさが。どうぞ。

【諏訪委員】 いろいろ議論を聞いていて感じますのは、私が言うのはあれですが、民間企業でのやり方を例として申し上げますと、普通、企業、会社では、まず、働き手のサラリーマンが自己申告するわけですね。自己申告でどういうことをやる。それに対して上の部長なり課長なりが人事考課をするわけです。ただ私の時代は、人事考課は一方通行でしたけど、今は多分、本人の自己申告プラス上司、それから同僚、部下、360度考課というのをやっているわけです。その観点でいくと、この図書館協議会がやるべきことは、市の図書館側が、今の例で言えばサラリーマンの役、それがどうやるんだという目標をやったものに対して、多分、上司なのかどうか分かりませんが、評価をするのが協議会側の役目だと理解しています。そうすると、例えば1－1で、LED化しました。これは、した・しない、はっきり分かりますね。あるいは新聞閲覧台を購入した。購入すればマル、していなければバツです。それ以外、評価のしようがない。

ところが、市民の皆さんが満足したかどうか、これはアンケート調査でもやらない限りできないわけです。ただ、民間ではマーケット理論をたくさん使って、理論的にかなり出しちゃいます。その確認のためにアンケート調査をやるだけですから、アンケート調査は、アンケートの出し方によって幾らでもリードできちゃうんですね。ある意味で言えば。それを是正する方法がマーケティング理論ですので、その辺と組み合わせないと、アンケートでは正確なことは答えられ

ない。ただし、今回このケースでは、アンケートもやっていませんから評価のしようがないわけです。そうすると、協議会としてどう判断するかというのが、この辺、私、アイデアがあるわけじゃありませんけども、難しいと思います。

ただ、1つ、例えば1ページ目、最後の「総評の視点」とありますが、これは言葉がちょっと、そういう意味でいくとあまり適当じゃない。評価だ成果だと議論されていますが、要するにこれは評価の結果ですよ。結果がどうだったということがここに書いてあればいいんで、その視点を云々なんていうから、またぼけてしまうと思うんですね。だから、評価の目的と方法と結果が、3つはつきり出ていけば、目的がクリアになって、それをどういう方法でやったか、その結果はこうでしたと言えるわけです。それを最後に、視点なんていう言葉を使うからややこしくなると理解をすれば、もうちょっとクリアな議論になるんじゃないかと思いました。ちょっと僭越なことを申し上げましたが以上です。

**【大串会長】** なるほど、大分クリアになったんですけども、その後じゃあどうするという話になるんですが、じゃあ川井先生、いかがですか。

**【川井委員】** 全部は私も、細かくさっき奥村委員が言ったところまで見切れていないんですけど、例えば1-1、根拠は知りたいなと思うんですけど、「市民が増える」とは、多分マル印の2つ目に、「好きな時、好きな場所で読書を楽しむ利用者は着実に増えている」からという捉え方で見ればいいのかなどと思います。ただ、「増えている」というのはどこで確認すればいいのかなどという問題はあるので、さっき御説明の時に、数字は出していないからと言われるんですが、そもそも評価は数字がないと、増えたか増えないかは、要は数的に増えた・増えない、さっきのLEDつけた・つけないと一緒というところがあるので、だからできないのかなと思いました。そこを今回の議論では、数字は出していないということだったので、この文章から我々は判断したらいいのか、もし判断するのだったら、利用者が着実に増えている根拠をお示しいただければ、判断はできるかなと思います。以上です。

**【大串会長】** ありがとうございます。ほかの方いかがですか。

**【奥村委員】** 今の文章のところの前半が、「電子図書館の利用者数は微増となっております」で、下のところを見ると、令和2年は820で、令和3年が1,237、令和4年度が1,236なので、微増というのが2年と3年の平均からして

だったら結構増えているし、去年と比べたら微減で、どちらかというと同じというふうなところなので、微増というのはどこから出てきた感じなのかなというのにはちょっと疑問に思っております。

【大串会長】 なるほど。どうぞ。

【香川奉仕係長】 微減というのは、平均を取ったら確かに上がるのですけれども、前年と対比すると1減です。

【奥村委員】 書いてあるのが微増なので、どこをどう見て増で。

【香川奉仕係長】 そうですね。だから平均で見たときには上がっているけれども、前年と見たときには1個下がっている、ほぼ同等だなどこんな表現をしまっているところなんです。先ほど来、数字の目標がないと評価できないという御指摘をいただいております。全くそのとおりなんですけれども、今回この評価の作りとしては、明確に数値目標を出していません。今回の図書館基本計画の作りとしては、こういう状態になってほしいという、あくまでもふわっとした方向性が目標になっています。表のところにも書かせていただいたんですけれども、最終年度、5年目のところで基礎調査を行うので、そこでアンケート調査を取ります。

アンケート調査を取った結果、初年度の基本計画をつくるに当たってのアンケートを取った結果と、今回この基本計画の4年から8年のこの取組の積上げで、前回のアンケートと令和8年で、次期計画のために取ったアンケートの結果、満足度が上がっていれば、この5年間の計画は達成できたねという形になるんです。なので、毎年毎年の積み上げはあくまでも結果。私たち図書館側がやった結果でしか書けないんです。書けないけども、目標としては、例えば読書を楽しむ市民が増えるような方向性を持って事業をしていますよという形になって、結果は5年後、この計画は5年スパンのものなので、この計画そのものがうまくいったかどうかは、そのときに、ある意味で、皆さんの言う事業評価の形になるのかなと思います。

なので、毎回毎回の、1年間ごとの図書館評価に関しては、この目標に向かって1年間、結果はこのようにやりましたということはお示しできるんですけれども、私たち図書館側の行動に対して、もうちょっとここ頑張ったらか、ここを頑張った次、何するのとか、そういったところを御意見としていただければ、

次年度、また次の年度に対して、予算要求もろもろ含めて、運営の一助にさせていただければと思いますので、本当だったら、毎年毎年の件数だったり、アンケート結果が出れば、皆様が想定される評価になり得るんですけども、今回の図書館基本計画のつくりがそういう形になっているので、そこはちょっとお酌み取りいただければと思います。以上です。

【大串会長】       どうぞ。

【大久保委員】     御説明ありがとうございます。大久保です。

そうなんですよね。「事業の方向性」をP l a nとしているので、ここに「事業の方向性」がP l a nになっていて、その隣に、D oが事業結果で、下が成果ということで、方向性に沿って展開しているというようなものだということが改めて分かり、ここに前回、去年かな、1回これのたたき台が出てきたときに、こちらのイメージという資料を頂いて、もう一回見たんですけども、ああそうか、直接アウトカムとか、中間アウトカムという言葉があって、そういうのに基づいて回っているサイクルなんだなということで、一般的に、目標に対しての成果とか、達成というのとはちょっとまた種別が違うのかもしれない。

【香川奉仕係長】    ちょっといいですか。これのつくりが今そうなっているんです。

【大久保委員】     だからこれのつくりを、やっぱりどこかに1枚入れておく必要は。御自分のバックグラウンドのところの評価の視線で見ていっちゃうと、どうしてもこうやってずれていってしまうので、あくまで図書館基本計画のロジックは、こういう形で回っていると。それで5年目に調査をして表しましょうということなので、だからそういう意味からすると、電球を交換したので、明るくなって、直接の成果は発生はしたと見れば。だから直接アウトカムなのかどうかを見ていけば、「事業の成果」のチェックのところは当てはまるんじゃないかなということで、このような書き方でよいのではないかと思いました。ですから大事なのは、図書館基本計画はこういうサイクルで回っているんだよということ、これをセットにしておかないと、評価するときも、自分の尺度に沿ってやるとどうしてもずれちゃうので、これを理解する必要があるのかなと気がつきました。以上です。

【大串会長】       なるほど。さて、そろそろまとめなきゃいけない。どうぞ、ま

だ御発言されていないね。

【高橋委員】 令和4年度の重点取組予定事業というのがありますね。それは本当に新しくやる事業なのか、今まであったけども、さらにステップアップする事業なのかというのが、分かりにくい部分があるので、そこを明確にすると、あ、これなかったんだ。LEDとかつけなかったけども今回つけたんだと分かります。それから防災訓練、あまりやらなかったけど、今回初めてやることになった等。初めてというのと、前もやっていたけど同じことをやるよというのとでは、評価の尺度が変わってくると思うので、これ、もうちょっと予定事業が、どういう初めてなのかというのを明確にしたほうがいいかなと思いました。

それで4ページの1-2であれば、絵本リストを作った。「全館で配布する以外に、健康課に協力を依頼し「母と子の保健バック」の中にも封入したため、絵本リストを見ながら絵本を選ぶ利用者が増えた」と書いてしまうと、私も保健センターで仕事をしているので、封入する、ああなるほどというのは分かるんですけど、そうすると絵本リストを見た母子が増えたと思われるとか、初めて封入したとか、そういう形のほうが良いのではないのでしょうか。ここで利用者が増えたと書いちゃうと、えっ？ どこで調べたのという話になっちゃうので、そこでまた評価というのも変わってくるのかなという印象を受けました。

【大串会長】 だから我々がまず、拝見して考えることというのは、まず最初に、上の各ページの「事業の結果」というところの、「事業の方向性」というのがあるんですね。例えば「安全・安心に利用できる施設環境の整備」。これに対して事業をこういうのをやりましたよというのがここに書いてあるから。それが、例えばおっしゃるように、継続なのか、それとも新規にやったのかが分かって、今年は特にこういうのに取り組んだなというのが分かるというのは、今のはまさにそのとおりで、けども我々としては、例えばこれを見て、じゃあもってこういうことやらなきゃいけないんじゃないの？ こういうのもあるよねというのがまたあるわけです。なぜそれやらないんだよというところもあるわけです。そうすると、もうちょっと考えて、これは評価としてあまり評価できないとか、そうか、それは難しいから今ここでやっているのが目いっぱいだよねといえ、ああそうだよねという話になって、よくやっているなということになるという、こういう感じですね。

それがあって、下の「施策の成果」になっちゃうと、いかにも何か、無理やり書かなきゃいけないということがあって、それで書いているんじゃないのというところがあるので、僕としては素直に、今、委員がおっしゃったように、継続としてやっているということと、新たにやったことを仕分けていただいて、それでその上で、これでいいのということをもまず問いかけたほうが、我々としては評価しやすい。

それから、もうちょっと評価としてということをやると、それだけじゃなく、それは実績に基づく評価なんだけども、そうではなくて、世の中はこう、社会はこう変わってきてるんだから、もうちょっとこのところは、こういうふうを考えなきゃいけないんじゃないのというところがまたあるわけです。それはまたそれで議論しないと、ないものねだりになっていく可能性があって、それはできないよなという話になって、要するに夢のことを言うなよという話にもなってくるので。

僕としては、いただいたときに、やっぱり上のほうの「事業の方向性」と「事業の結果」、これを要するにベースにして、それで考えたほうがいいじゃないかと思ったんです、我々としては。ああ、こういうことやってるんだ。おっしゃるように継続してやったし、今年度は新規でこういうことやったんだ。それで、また来年はもう一つやるって言っているんだからと、こういうようなことで、それで何か評価させていただいたほうが。

それで各項目それぞれ、よくやったね、そこそこだねと。例えば上の5つの項目があるとしたら、5つの項目全体として、ああ、よくやったということで、結果を二次評価をすればいいんじゃないか。ただ、よくやったけども、このところはもっとこうしてほしいとか、こうしたほうがいいのか、そういうことを書き加えていくほうがいいのかなど思った。だから施策の成果とか、この辺のことは、一応は、なるほど、図書館側はこういうふうを考えているんだと。だからそれも含めて勘案するとこういうふうになるなという、その辺りでまとめたほうがいいのかなどという感じはしたんですけど、いかがでございましょうか。どうぞ。

**【藤森委員】** すみません、そもそものことを聞いて申し訳ないんですけど、この評価シートは、評価は、どれだけの範囲の方の下に届くものですか。

**【大串会長】** これはあれですよ、市民に公開される。



【香川奉仕係長】　　そうです。図書館のホームページで公開しますので。

【藤森委員】　　一般の方に？

【香川奉仕係長】　　そうです。

【藤森委員】　　私たち、図書館に興味のある者たちが読んでもかなり難しいと思う点が多いので、一般の方たちが読むのはどうなんだろうというところが随分ありますね。それはどうなんでしょう。それからもう一つ気になったのは、いきなりPDCAとか、そういう言葉が出てきて、横文字、すごく内部的には慣れていらっしゃる言葉なのかもしれないけれど、一般の方たちが、果たしてそれがお分かりになるかどうか。そういうことをよく考えて、これが普通の家庭の方が読んで、果たしてどのくらい理解できるか、それをちょっと疑問に思いました。

【大串会長】　　おっしゃるとおりで、それは私も、ちょっと表現としてあれなので。ちょっと時間もあれなので、そろそろまとめたいと思うんですけども、我々の作業としては、先ほど高橋委員ですか、おっしゃった、ちょっと目が悪いのでよく見えない。おっしゃったように、これはもう一度、事業の結果のところの表を作り替えていただいて、事業の結果のところ、継続なのか、新規なのか、ちゃんと分かるような形で表を作っていただいて、それで、それに対して私も、これ継続でいいよとか、もっとこういったことで取り組んだほうがいいのか、もっと別のこういったことをやったほうがいいのかというようなことを、それぞれみんなが考えて、意見を言って、その下で、よくやったとか、もうちょっと頑張ったほうがいいのか、非常によくやっているとか、そういう評価にしたほうがいいのかと思うんですけどもどうでしょうか。

だから、今日は取りあえず、そういう表を出してもらって、送ってもらって、それで、それぞれ御自宅で考えてコメントをつけていただくというふうにして、それを集めた段階で、事務局と私と副会長が寄って文章を考えるという、その辺りでまとめたほうがいいのかと思うんですけど、どうでしょうか。ですからちょっと、事務局がこれだけ考えたんだけど、施策の成果とか、基本方針に対する成果というところは取りあえず隠してしまって、上の「事業の結果」のところの表で我々は考えるというふうにしたいと思うんですが、どうですか。どうぞ。

【奥村委員】　　事業の結果のところと、あと下の一次評価で、これから何をし

たいかというところがあると多分見やすくなるのかなと思います。もし「施策の成果」というところだったら、「目指す状態」と、右側が、つながりを読み解くのがちょっと難しくなるので、そこを隠してしまうか、内部では作っておくけれども、一般向けには、事業の結果と、これから何をすることが分かれば、恐らく分かりやすくなるのかなと思います。

あと、「基本方針に対する成果」が、「基本方針に対する参考資料」くらいでいいのかなと。登録者数の増加を求めているのかとか、登録率が高いほうがいいのかというのは、特にそこまでは書いていないので、それは登録者数が少なくなったら成果が下がったのかと見られても、ちょっと違うなとは思っているので、何か成果というよりは、基本方針に対する参考資料、資料みたいなところでいいのかなと思います。

【大串会長】 なるほど。今の御提案いかがですか。どうぞ。

【伊東委員】 今の考え方ですごく整理されたんじゃないかと思いました。先ほど来から私が言っているのは、1 ページ目にあるのは、事業評価のような形で、自己評価と二次評価ということを書いているので、自己評価のところにも、ABCの評価をすべきだ。二次評価も、それに対してすべきだと言っているんですけども、例えば1の、本来だったら基本方針1に対して、1-1はAなのかBなのか、1-2はAなのかBなのかという自己評価をして、基本方針1について、自己評価が、総合評価はAなのかとか、そしてそれに対して、関係者評価である二次評価はAなのかBなのかという形がすっきりするんですけども、もしそれができないんだったら、自己評価も、それから二次評価も、AとかBとかつけないで、もう完全に文章表現で表現していくというようなやり方でもいいのかなとは思いましたがけれども、今後もしやるんだったらそういうような形ですけど、今年度は暫定的にそういうふうにやってもいいのかなと思いました。いずれにしても、当初の目標的なものがあって、こういう取組をやって、今後の方向性という、先ほどお話があったようなものがあると、セットして非常に良いので、そういうやり方が私はいいと思います。

【大串会長】 事務局どうですか。いろいろ意見が出ましたけど。

【香川奉仕係長】 新規でやったとか、継続、あと重点取組事業ですとか、そこは○とか★とか、ちょっと分けて、一旦お出ししたいと思います。

「施策の成果」に関しては、「目指す方向性」と書いてあることが一致しないよねというような、この1年、2年、3年、4年は、どうしても苦しい部分があるんですけども、一定、私たち、この事業をやったらこういうふうに変化したんじゃないかと言い切った部分は、表現としてはちょっと変えなきゃいけないなというところもあるので、こういう変化があったんじゃないかとか、こちらの一旦、自己分析のところは載せさせていただくような形で、一旦、もう一回、意見いただいたところは整理させていただいて、総評のところも一次と二次、ちゃんと欄を作るような形で組み替えさせていただければと思います。

それをもって、改めてメールをさせていただきます。恐らく積算されている事業の結果は変わらないんですけども、表がどうしても、やはり委員の皆様の御意見と、今の表がなかなかマッチし切れていない部分もあるので、拾えるところは拾って、再度組み直してみたいなと思いますので、ちょっとお時間をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【大串会長】       どうぞ。

【伊東委員】       やっぱり市民に公開するという事は非常に大きいことだと思うんですね。小金井市のインテリジェンスがある方々の目につくということは、やはり今後、図書館協議会がどういうスタンスでやったのかという、この協議会自体が問われると思いますので、今お話しがあったような形で精査してやっていただくと良いと思います。

【大串会長】       ほかの委員の方がいますか。どうぞ。

【大久保委員】     そういうことからしますと、第1ページ目の「評価の目的」の後に、「目指します」の後に、基本計画の49ページに書いてある、市民への公表を通じて開かれた図書館運営を図るというのも、やっぱり大事な一文ではないかと思うので、ぜひ入れていただければ、しっかり見ていただけるようなものをつくっていくんだということは伝わるかと思います。以上です。

【大串会長】       ありがとうございます。ほかにいかがですか、大丈夫ですか。どうぞ。

【奥村委員】       細かいところなんですけれども、右下の一次評価の★と、次年度の★がつながっていてというのが分かるので、今年度までの★と次年度の★が、もうちょっと違うマークにできたら。

【香川奉仕係長】 そうなんです。それは二重星にしようかと思っています。

【奥村委員】 そういう点だと、この★は来年度の★で、この★は今までののだというのが分かりやすいのかなと思いました。

【香川奉仕係長】 重点取組事業の中でも新しいものと、引き続きのものも出てくるので、そこら辺もちょっと変えます。

【奥村委員】 ★と決まっていればしょうがないなと思うんですけど。

【大塚委員】 私は最初、この表を拝見したときに、○とか★とかの意味がどこかに書いてあるんじゃないかと思って一生懸命探しちゃった。

【香川奉仕係長】 ★だけは書いてあります。

【大塚委員】 できれば、そのページごとに、繰り返しになっても、凡例と同じように、これは何々ですというのが分かるように。

【香川奉仕係長】 新規、継続、重点でちゃんと分かるように。

【大塚委員】 要するに1枚のシートの中で見たら理解できるように、ごちゃごちゃしてしまうかもしれないんですけど、書いていただけるとありがたいかなと思います。

【大串会長】 ということで、もう一度、事務局のほうにお考えをいただいて、それで私どもに送っていただいて、それに対して私どもは、結局それぞれに自分で書き込むということになりますけれども、書き込んで、それをまた事務局に戻すと。そうすると、これをメールで送っていただいて、それを出力して、そこに書き込んで出すのがいいのか、メールの表みたいなやつ、その中に書くようになるのか、それがいろいろ分からないんですけども、いずれにしろ、もう一度その辺も考えていただいて、それで私どもに送っていただくと。

【香川奉仕係長】 メール文に、例えば、基本方針1に関してはこう思うとか、ベタ書きでも全然構いません。

【大久保委員】 お手数なんですけど、意見がたくさん出るかどうかは分からないんですけど、そのときには意見シートみたいなフォーマットで、凡例で、何ページ何段落とか、どこのことについて書いてあるかが分からなくなるように、何ページ何々についてで、ここを意見とか、そういうフォーマットがついてると、それに入れていくだけでいいので。自分でだと、ベタ書きだと見るほうも大変かなと。やりやすいように、意見シートみたいにセットしてあると、そこ

に入力して送れるから。あんまりたくさん意見がなければ、ベタ打ちでも。

【大串会長】 そんなことではいかがでございましょうか。じゃあそういうことで、もう一度何となく仕切り直しというのも恐縮でございしますが、進めたいと思います。

それで、次に今日は、最終的には皆様方に、私どもに一任いただくことになるのですけれども、「その他」のところを議論しなきゃいけないのですが、事務局、「その他」のところでは何かございしますか。

【内田館長】 特にございません。

【大串会長】 それでは、あと、今日は予定としては、第17期の図書館協議会の最後の協議会ということで、皆さんから一言ずつこれまでの感想をお願いできればと思いますということで、一言ずつ、今のことでかかってもいい、事業の中身にかかってもいいですけど、最後にお話をいただくということでよろしゅうございましょうか。何となく奥歯に物が挟まったような言い方になるんですけども、順番にじゃあ、それぞれ最後ですでお話をいただくということにしたいと思いますのですが、どうでしょうか。順番にというと私から言ったほうがいいですね。

私としては会長職を仰せつかって、ずっとこういう会議や何かで取りまとめも含めてお話しをさせていただいたんですけれども、途中のところでは何か、社会教育の方々とかの話し合いのところでも少しお話ししましたように、やっぱり小金井市の図書館というのは、建物自体の空間の造り方が、かなり古いお考えの下で造られているので、それはそれとして、当時はよかったんですけれども、今の時代にそれがふさわしいものかどうかは、私自身、非常に疑問に思っているところがあって、やっぱり図書館というのはもっとオープンスペースがあって、そこで住民の方が様々なこともできるような。それと本を活用して、本とか情報を活用して、いろんなことができるような仕組みにしてほしいなとずっと思っているものですから。

実際、私、図書館のアドバイザーや何かをやって造ったものが、山梨県立、それから昭島市立、それから今度、日本図書館協会の建築賞をもらった板橋区立中央図書館という、これはずっと関わったんですけども、結局それぞれオープンスペースを造って、人が集まって、住民の方がいろいろなことができる。それから

子どもたちも、自由にいろいろとできる。そういった空間を。それから小学生、中学生、高校生も、それぞれのところで、みんなが集まって、いろいろとおしゃべりしながら勉強できるとか、それから板橋の場合は、小学生のそういう集団学習とか、いろいろなことができるように、小学生専用の部屋をつくって、それでレファンレンスブックや何かを置いて、そこで勉強して、宿題をやってもいいし、何人かで集まって調べ学習みたいなことをやってもいいし、おしゃべりしながら本を読んでもいいという、こういう空間をつくったんです。

やっぱり図書館は、本というのは、単に読んだり調べたり、楽しんだりする、それも個人でやるだけじゃなくて、みんなで作って、それが、人々がその間で仲間をつくっていくとか、つながりを生んでいくとか、それで新しいものを生み出していくとか、そういう性格のものだと思うんです。もちろん、中にはこの本絶対欲しいといって、何はともあれ図書館から持ち出そうと、貸出の手続もしないで持ち出そうというのがあるんですけど、それは本の魅力で、本の魅力に取りつかれた個人がそういうことをやる。そういうことで、ちょっとなかなか物の言い方が難しいところですけどお仕事と言いますか、皆さん方の中心でいろいろとお話しをさせていただいたり、会議を進めさせていただいたということで、皆さん方にも、奥歯に物が挟まったような言い方をかなりしてきたんで、大変申し訳なかったと思うんですが、取りあえず今期はそういうことで、役目を解いていただくことになりましたので、いろいろと御協力いただきありがとうございます。

じゃあ順番にこちらから。

**【大塚委員】** 市民代表で出ております大塚です。副というのは名ばかりで、何もやらずに16期と17期、2期、務めさせていただきました。皆さんの御協力に感謝したいと思うのですが、すみません、今日が最後なので、ちょっと気がついたことを数点言わせてください。

1つは、私、貫井北の利用者なんですが、今、会長から建物のお話もあったんですけど、貫井北の場合は、ある程度は閲覧できる机とかがあるんですが、実は私、ある時期に、都立中央から館内使用限定で、洋書と和書とを借りたんですね。1か月ぐらいほとんど、しょっちゅう貫井北に通ったんですね。要するに貸し出せない資料を借りたものですから、それですと見てましたら幾つか気に

なりました。一般的に若い人たちの行動の中で、1つ、どう考えてもこれは写真を撮ってるんじゃないかなという音がするというのがあります。それから席をずっと利用して、物を置いたりして利用している。私はあるとき席がないので、雑誌コーナーのところで読んでたんですけれど、洋書の場合は、私もやっぱり電子辞書を引きたいし、それからもともと借りられないし、コピーも難しい古い本だったので、ノートを持って行って全部、あとパソコンも持って行って、それと引き合わせしながら読んでいたんですね。それを雑誌コーナーのソファでするのは非常にきつかったです。

貫井北の場合は上に公民館のスペースがあって、学生さんなんか、勉強はそこらでもできるわけですね。図書館で今言ったように、図書館の館内利用しかできない本で調べ物をしたいという人間は、せめてそれができるスペースを優先的に使わせていただけるような配慮というのをさせていただければありがたいなとそのときに思いました。それは1つ。

それからお名前出して申し訳ないんですが、少し前に大久保さんから、ちょっと調べ物の御相談いただいて、リストを作って、私そのときに、公民館の協議員のお仕事の、公民館の有料利用、無料利用のだったんですね。基本統計に当たって、基本統計がなかったんで、大久保さんがどういう資料を御利用になりたいか分からなかったんで、だーっとリストを作ってお出ししちゃったんですよ。私としてはどういうものが欲しいのか分からなかったから、あらゆるものをだーっとリストしたと。そしたら図書館のほうにそのリストをそのまま持って行って相談されたらしいんですけど、最初に相談をされたときに図書館のほうから、これは借りられますとか、そういう指定をされた中で、これは論文ですよという言い方を、私の理解が正しいかどうか分からないんですが、で、返されたものの中に、実は文科省の科研費の資料があったんです。科学技術研究助成金の。そのときに、実は大久保さんが知りたかった内容の数値は文科省の科研費の資料をオンラインで見ればすぐそこにあった。そこから引っ張れる資料だったんです。

で、申し訳ないんですけど、レファレンスでリストが出てきたときに、雑誌、図書と振るだけじゃなくて、国の情報は、今の科研費のように、紙では出てないものというのがたくさんあるわけです。ですので、せめて、こういう言い方は変かもしれませんが、私も公務員でしたからなんですけど、行政から電子的に出て

いる情報は、きちんとそこにカウンターで案内するというのは、これは公務員の義務だと思うんですね。そこで分からないで帰しちゃうのは、ちょっと私としてはおかしいかなと思います。

それから、私もごちゃごちゃとデジタル化の資料を上で見たりとか、いろいろやっているんですけど、こんな言い方は変なんですけど、私もう68なんですけれど、もしかすると図書館の職員の皆様の中には、今言ったようなインターネットの情報、無料で国民が誰でもアクセスできる国の情報、それをきちんと利用者に教えるということに関しては、ちょっと技術が足りない方がいらっしゃるような気がします。そういうところは国立国会図書館なんかも本当に必死でデジタル化してきました。私のような年代の人間でもついていくのは物すごく大変だったけれど、でもインターネットで国が情報を出すようにというのが方針で、しかもそれしか情報源がないんだったら、やっぱりそれが見られるようにするというのは役割だと思いますので、その点につきましては図書館のスタッフの方々は、皆さんきちんと利用者にサービスができるように、研修なり自己研さんなりを深めていただければありがたいかなと思います。

全体としての感想ですが、私は大学で図書館学を教えていますし、それから、日本図書館協会の役員をしまして、今話題になっているのが、書店議連の活動です。

根本にあるのは、図書館が貸本屋になっているという批判に対して図書館は何を言えるかということだと思うんです。それをずっと調べていたときに、実は図書館貸本屋論争の口火を切った方が何人かいらっしゃるんですけど、林先生、林望先生、小金井の住人でいらしたんですよね。それが私個人としては引っかけ、私も違う立場で小金井の図書館を利用したら、公共図書館は貸本屋じゃないか。それは貸本屋にならないでほしいということを諏訪さんも前回、言ってくださっていたんですけど、そういうふうな傾向がちょっとやっぱりあるんじゃないかなと。これは非常に辛口の意見かもしれないんですけど、じゃあ、そうならないために、今話に出したような、書店議連とか、世の中の動きとかに対しても、図書館のほうで考えて対応していただきたいかなと思います。

【大串会長】      ありがとうございます。

【大塚委員】      要望だけで申し訳ありません。



【大串会長】 いやいや、国の図書館員の再教育、いろいろとやっていた人間として非常に耳の痛いことでもございましたけれども。

じゃあ川井先生。

【川井委員】 校長会代表なので、ここに着任してからずっと担当を変わらずに、校長会の中で担当が変わらないので、引き続き経験させていただきますが、毎回ここへ来て私はほとんど意見が言えない。すいません、勉強不足というか、勉強をしに来ている感じです。やっぱり中学校の校長なので、小学生や中学生が図書館を地域の中の場所として、もちろんそれだけじゃいけないんでしょうけど、まずそこを考えて会議等には参加させていただいています。今、貸本業になるというけど、やっぱり中学生からしたら、学校の図書館を考える限りでは、本を借りて読むというところで、本校の図書委員の目標は、貸出冊数を増やすというところで、さらにその先の調べ学習とかとなると、これは今、情報の正確性で言うと、決してネットは正確じゃないものが多いので、そこは見極めなきゃいけないんですけど、なかなか今は便利に調べられちゃうので、端末も1人1台ある時代なので、なかなか本で調べるというところを学ばせるのは難しいなどは考えております。

ただ、先ほど委員長様がおっしゃったように、集まれるスペースがあるというのも、1つの図書館のこれからの使い方なのかなと、またお勉強させていただいたのですが、やっぱり図書館も、学校も古いんですけど、時代に遅れて、なかなか施設設備でいえば取り残されるところなんですけど、やっぱり図書館もこれからの時代に合わせて変わっていくというところを、個々の協議会でも話していけるといいのかなと思いました。ありがとうございました。

【大串会長】 どうもありがとうございます。じゃあ高橋さん。

【高橋委員】 福祉分野で推薦を受けて、参りました。2期で卒業させていただきますので、今日で皆様とお別れなんですけれども、私も子どもが小さいときは、文庫活動をしておりまして、もう本当に図書館で本を借りて読んだり、読み聞かせしたり、いろいろと図書館を本当に知の拠点とさせていただいて、本に触れてきたんですけれども、やはり子どもが大きくなってしまうと、また子どもは子どもで、私は私でみたいな形で、なかなか、あまり本を真ん中にして話をするということも少なくなってきたので今回、協議会の委員をさせていただいて、ま

た改めて、すばらしい方が小金井にこんなにたくさんいらっしゃるんだと感動しております。やはり小金井の図書館がもっとよくなるように私も望んでおりますし、皆様もまた頑張って協議していただいて、いい図書館になっていくことを非常に願っておりますので、陰ながら応援したいと思います。ありがとうございました。いろいろ学ばせていただいて感謝しております。

【大串会長】       じゃあ次、諏訪さん。

【諏訪委員】       図書館協議会の1人が社会教育委員の兼務となってまして、私は社会教育委員からこちらへ来ていますので、ただ、社会教育委員には、社会教育団体の代表の1人として入ったんですが、私が関係しているNPOはシニア相手なんですね。ところが社会教育委員会というのは青少年の教育が中心でして、青少年の教育、要するに小学校、中学校、高校での教育のアカデミックじゃない部分をカバーするという趣旨ですので、どうも私が関係した団体とはちょっと合わない。合わないというか、あまりお役に立たないということで、社会教育委員会のほうではあまりしゃべらないようにしてたんです。

それで母体がそうですから、図書館協議会へ来てもあまりいろいろな意見を申すのもどうかなということで、あまり図書館の本業に対することは申し上げなかったんですが、例えばアンケート調査をやられたアンケートのやり方、それはちょっと甘いんじゃないかと。我々の経験からすればおかしいと思うようなところを分析していないというようなところは、そこはちょっと、もうちょっとやってくださいとか、そういうことは幾つか申し上げたんですが、皆さん議論されているような、図書館の本来の云々というところは、背景が背景ですので、あまり申し上げるわけにはいかんかなということで、申し訳ありません、お役に立ちませんでした。一応、社会教育委員会のほうは2期4年で退任することになりましたので、自動的に図書館協議会も2期4年で終了となりますので、いろいろお世話になりましたが、ありがとうございました。以上です。

【大串会長】       じゃあ次、大久保さん。

【大久保委員】       私は小金井市小中学校PTA連合会から、家庭教育に資する活動を行う者ということで来させていただきました。2期やらせていただいて今日でおしまいとなります。

会長、副会長はじめ、皆様、事務局の皆様、お世話になりました。ありがとう

ございました。個人的には価値のある活動であったと思います。こういうことでもなければ、多分出てくることのなかったことですので、私にとっては勉強であり、挑戦ではあったのですが、沈思黙考というか、考える時間をいただいて、本や絵本や子どもが大好きなので、図書館にも通い、公民館にも通って、図書館の実態ですとか、公民館の実態を身近に感じました。

やはり心配なのは、施設の老朽化もさることながら、やはり人が集まる場があるということがまず大事。幾ら情報、テクノロジーが発達して進歩しているんですけども、やはりそこで活用する場所が町の中や生活にないと、ただ机上でやっているだけでという時代は既に終わってしまって、やはりよその自治体を見ますと、新しいのが建ってみたい、工夫してやっているところがやはりうらやましいなという気はします。ですので、ほかの施設と図書館はまた違うのかな。自治体の中でも違うのかなという気もしますので、ぜひ子どもたちのためにも、生涯学習の場としても、図書館で生涯学習センターみたいなものが大きな夢なのかなと思います。

それから最後にレファレンスなんですけども、やはりどのようなことについても答えていただけるという、あまり確信が持てない感じが現状としてあって、先ほど大塚副会長もおっしゃっていたんですけども、例えばこれこれについて調べたいといったときに、まず対話が必要だと思うんですよね。最初からこの本のこれでといったら、ただ検索すればいいんですけども、ただ、その本のほかにもこういうものがありますよとか、こういうものをお探しじゃないでしょうかみたいな対話があつてこちらも分かっていく。全て知っていないので、ですから、私が探していた資料は、実は科研費の論文のほうがよりよかったということ、ほかの資料も全部取り寄せて読んだんですけども、やはりレファレンスの場所も狭いから、カウンターでやりとりするとほかの人に迷惑とか、まずそういうところからなのかなと思いますので、レファレンスについては今後の課題として、スキルアップも含め、本当に調べていただきたいと思います。

最後に、「調べものリンク集」というのがホームページに出来て、開くと市議会の議事録ですとか、ほかにもいろいろなものが出てきて、会長のこの間の講演ではないんですけども、一体どうやったら使ったらいいのというのが全く分からなくて、例えば国立国会図書館リサーチ・ナビとか、都立図書館のテーマ別

調べ案内とか、総務省統計局の e - S t a t とか、ジャパンリサーチとか、いっぱい並んでいるんですけど、一体どうやって活用したらいいかが分からなくて、せめて、図書館のスタッフさんがまずこういうものを使えないということで入ったのかなと思っちゃったんですけど、私たちも一緒なので、市民も主体的に使えるように、普及の取組として、情報検索講座のようなものはこれから開いていっていただく、開かれた図書館というのはそういうことじゃないかな。リンク集をつけたから、もうあとはお願いしますじゃなくて、つけても全然分からないんです、意味が。なので、例えば子どもにも、自分で検索して、それで終わりじゃなくて、こういう資料もあるよということを普通に言えるようになるために、親も一緒に学んでいかなきゃいけないので、せっかくリンクつけたので、ぜひ情報検索講座のようなものを開講していただけたらと思いました。ありがとうございました。以上です。

【大串会長】       ありがとうございます。じゃあこちらの列。

【藤森委員】       若いときからずっと出版社に勤めていて本が大好きだったので、本に関わるお仕事ということで応募して、実際、あんまり本に関係ないお仕事、こういう公文書的なものはすごい苦手で、こういうものに今まで触れてこなかったもので、大変勉強させていただく機会、いい機会だったと思います。

それと、個人的にはもう少し会議を、回数1年間に今5回くらいですか。それだとちょっと、あんまり仕事がちゃんとできないという気がするので、もうちょっと会議の回数が増えたらいいかと、この1期2年間で思いました。それこそ結果を出すというか、そういったことが、いい図書館、図書館の建物をよくしたいとか、本館をよくしたいという話は10年も前からずっと出ていることですけど、一向に進まない。なので、図書館協議会がもう少し頑張って何とかそういう機運を盛り立てていきたいと思うんですけども、それにはやっぱり、回数が少な過ぎる、それからこういった公文書的なものをつくることに時間を取られる。それで図書館をよくするというのに力を注ぐことができない、それがちょっと気になったところです。以上です。

【大串会長】       これにも書いておいてくださいね。今の御意見を。

【藤森委員】       はい。ありがとうございました。

【大串会長】       じゃあどうぞ。

**【奥村委員】** どうもありがとうございました。一般枠からの参加で、学生時代に図書館でアルバイトしておりました、また本と関われるのが、図書館と関われるのがうれしい時間だったなという思いもありまして、続けたいとは思ったのですが、ちょっと転職も今考えておりました、この時間帯に参加は難しいかなと思ひまして、今期で、2年で終わらせていただきます。

図書館、ここはすごくいいなと思ひていて、雰囲気も結構好きですし、あとテーマも最近、すごい凝っているのもあって、トレーニングだったり、なぜだろうみたいな、そんな感じのテーマが最近あって、すごい借りたりして、あとは資格もここら辺でいろいろと本を借りて、ネットだとやっぱり分割した情報しかないですけど、本だとまとまって全体像が分かるかというところで、やっぱり本でしかできないところはあるよなというのが改めて感じているところで、ほんとはできれば、そんな、すごいいいところがあるなというところがほんとは評価のところに書かれれば、気に入っている人がどのくらいいるかとか、気に入っている人がどのくらい気に入っているかというところも評価にできたら一番いいのになというところは思ひてはいます。

1点だけ、もしかしたらなと思うところではあるんですけど、私、予約を結構入れるのですけれども、予約、携帯画面を見ると、ほんとにシンプルなところで、一番上、メニューとかで検索画面があって、検索したい本があるから使うのですけれども、一番上に、例えば図書館だよりの、ぱっと置いていて、どうしても目に入るような図書館だよりのであったり、何か大事な情報をぱっと上に載せられたら、携帯版を使っている人でも、どうしても目につくとか、そうするとよくここで話あった、前回ぐらいの図書館だよりの別館の学習室についても、ああ、あるんだみたいな感じで、せっかく発行しているので、そういうところが携帯版を使っている人、多分携帯のほうが多いのかもしれないなと思ひるので、そこら辺ができれば。ただ、ほかの友人の八王子市も、同じ方だったので、もしかすると設定上できないのかなというところも思ひつつ、また今後とも図書館をたくさん利用していきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

**【大串会長】** どうもありがとうございました。

**【奥村委員】** ありがとうございました。

【大串会長】       じゃあ先生どうぞ。

【伊東委員】       私も市内にございます東京学芸大学というところで勤務しております、そこからの推薦ということでやって参りました。図書館業務のことをあまりよく分からない中での協議会ということで、あまりお役に立てませんでしたけれども、東京学芸大学に勤務する前には、長く東京都教育委員会に勤務しております、図書館という部署が教育委員会の一部、いわゆる教育行政としてどうあるべきかという、そういう視点からいろいろ発言などをさせていただいたところでございます。また、東京都教育委員会の中でも、義務教育を特に担当しておりましたので、小金井市の子どもたちが他の市の、あるいは東京都は23区26市13町村あるわけですけど、こういったところの中で、やはり遅れを取らないような、そういう意味で、デジタル化とかICTの活用、そういったことが他の自治体よりも先進的にできるといいなというような思いを込めて、少しICT化に偏った発言をさせていただいてしまいましたけれども、こうして皆様方といろいろお話し合いをすることでたくさん勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

【大串会長】       じゃあ事務局。館長一言。

【内田館長】       私、ちょっと僭越なんですけど、私、図書館での勤務経験が全然ない中で、昨年こちらに着任させていただきました、第17期の皆様方には本当にいろいろと不案内な中、大変御迷惑をおかけしてきたんじゃないかと思っておりますので、また日々、本当にいろいろなことで支えてきていただいたと思っております。この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。

緑分室の委託化もそうですが、毎日毎日課題が生じていると思っております。先ほど大串会長からもありましたが、やはり建替えという問題、小金井市は抱えております。図書館だけではなくて、本庁舎が建たない状況が続いているということです。日々戦っているのですけれども、今皆さんから挙げたような課題も、職員ともども、至らない点も多いんですけれども、一個一個丁寧にこなしていけたらと思っております。

今日で17期の皆様方には最後になるんですけれども、引き続き温かく、場合によっては厳しく見守っていただければ幸いです。どうも2年間ありがとうございました。

【大串会長】      どうもありがとうございました。

それでは、本日の日程は全て終了いたしました。どうもありがとうございます。  
これにて散会したいと思います。皆さん2年間、どうもお疲れさまでございました。  
ありがとうございました。

— 了 —